○「今、こんなことしてます」
ご無沙汰している方々へ“近況報告”
○「こんなこと、感じてます。」
“社会教育主事有資格者として”

情報交換「市」

○会員どうしの「絆」を結ぶ。紙面上の“情報交換市場”
○「伝えたい！」「お願い。教えて！」“伝言板”

足尾での植樹体験活動

壬生町立壬生北小学校
教諭　片山　由美子

8月1日8時、社会見学予約のため、日産のサイトにアクセス。でも、残念な結果に終わり、別の見学先を探すことに…。ところが、なかなかうまく行かず、八方ふさがり。

そんなとき、足尾銅山観光・植樹体験という話が湧いてきました。足尾で植樹活動をしたことのある友人がおり、早速連絡を取りました。すると、その友人がボランティア団体との間を取り持ってくれました。その後は話がとんとん拍子に進み、植樹体験は成功裏に終了。本校で積極的に取り入れている、外部講師による「本物の授業」が足尾の地にて展開されたのでした。子どもたちは足尾の過去を学び、現在を知り、苗に未来を託しました。

かつて、社教主事講習にて「人との出会い、つながりの大切さ」を強く感じたものでした。今回も、そのつながりにより「災い」が「福」に転じたわけです。出会いや、つながりのありがたみを実感し、これからも大切にしていきたいと改めて思いました。

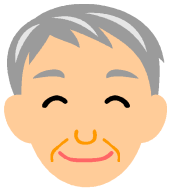
身近な存在に学ぶ

小山市立間々田東小学校
教諭　上野　浩子

「いつもきれいにしてくれてありがたい。」「こういう人が地域を支えてくれているんだよね。」と、近所の方々にお会いする度によくこのような声をかけていただきます。それは情けないのですが私にではなく、父親への感謝の言葉です。

父は、地区の公民館長を引き受けてから退いた現在まで、敷地内の落ち葉などをほぼ毎朝掃除しています。今では、近所の方が一緒に掃除をしてくださることもあるようです。自分から始めたこととはいえ、長年続けている姿を見ると父親を誇りに思い尊敬します。

私も父親のように地域の一員として見習いながら、学校・家庭・地域とのつながり、人とのつながりを大切にし、社教主事講習で学んだことを少しずつでも生かしながら、自分でできることをしていきたいと思います。



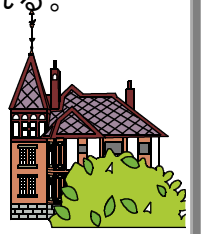
みんなをつなぐ“あいさつ”

栃木市立千塚小学校
教諭　鈴木　彩子

私は旅行が好きで海外にも何度か行ったが、その度に改めて日本の良さを感じる。日本は電車に乗っても親切なアナウンス等があり、初めての場所でもどうにかなるもの。一方でヨーロッパの国などは次の駅がどこかというアナウンスがない列車もよくある。しかし毎回いいなあと思うこと、それはあいさつだ。店に入れば店員も客も自然とあいさつを交わす。言葉が通じなくても、あいさつを交わすだけでグッと距離が縮まったような気がして旅はますます楽しくなる。

日本でもあいさつがないわけではない。私の家の近所の子どもたちは、後ろから自転車でやってきても元気にあいさつをして通り過ぎていく。そんな子どもたちとあいさつを交わす度に本当に心があたたかくなり、私自身あいさつの大切さを思い知らされる。

人と人とをつなぐあいさつ。有資格者として、また一教員として、地域と学校を、そして子どもたち同士をしっかりつないでいけるように、これからも笑顔で元気にあいさつすることを心がけたいと思う。



情報交換「市」もすっかり、「ネットワーク」の定番となりました。社会教育主事講習で一緒だったあの人が、一緒に勤務したあの人等が、「現在」の様子を皆さんに語ります。ぜひ、これからのふれあい学習の一助に、そして、紙上同窓会的意味合いもあります。今回の情報交換「市」も、ぜひ、お楽しみください。

○「今、こんなことしてます」
ご無沙汰している方々へ“近況報告”
○「こんなこと、感じてます。」
“社会教育主事有資格者として”

情報交換「市」

○会員どうしの「絆」を結ぶ。紙面上の“情報交換市場”
○「伝えたい！」「お願い。教えて！」“伝言板”

「あれからの私・これからの私」

下野市立南河内第二中学校
教諭 吉高神　摂

社会教育主事の講習を受けてから、三年半、その間に自分の置かれている環境がずいぶんと変化しました。受講時は上都賀地区の西方町に所属していたのが、市町合併で下都賀地区の栃木市に、そして今年の異動で下野市に来ました。その先々で温かく接していただいて感謝感謝の日々を送っています。

現在の勤務校は、ボランティア活動が盛んな学校です。生徒会が中心となって活動に取り組み、車いすを社会福祉協議会に贈りました。また、東日本大震災の被災地の現状を視察したり、関連する劇も鑑賞したりしました。大雪の時には、生徒自らが雪かきを行っていました。保護者の方々の社会活動参加の意識も高く、諸活動に進んで参加して下さいます。

南河内第二中学校は、今年が創立 20 周年の節目の年でした。新たな一歩に自分がどのように働きかけができるか考えています。

「栃木工業高校の社会貢献活動」

県立栃木工業高等学校
教諭　原　昌作

栃木工業高校は、様々な社会貢献活動をしている。そのいくつかを以下に、紹介する。

一つ目は「空飛ぶ車いす活動」である。この活動は約二十年前から続けられている。古くなった車いすを修理・整備して、海外に送るという活動である。

二つ目は、「ものづくり体験学習」である。ジュニアキャリアアドバイザーやサイエンススクールなどで、市内の小中学生にものづくり体験（サッカーロボットやライントレースカーなどの製作）を行っている。また、中学校での出前授業を行い、ものづくりの楽しさや学習内容を理解してもらうための講義等を実施している。

三つ目は「テクノボランティア活動」である。地域や小中学校の施設で修繕等の手助けをしている。ゴミ箱、ボールかご、トンボや駅前のイルミネーション等を製作・修繕した。

栃木工業高校に赴任して、２年になる。私も、生徒とともに社会貢献をしていきたい。

市民と共に歩む生涯学習

栃木市教育委員会都賀教育支所
主事　小松　宏嗣

将来の夢というのは、子どもの頃に誰でも持っていたと思います。私の夢は、生涯学習の仕事に携わることでした。その仕事を４年間もさせてもらっている私は超がつくほど幸せ者です(笑)

そんな私ですが、学生時代に教育を専攻していたわけではなく、着任当初は「やる気」と「地元愛」しかありませんでした。そんな状態のいわゆる『気持ち』で仕事を続けてきましたが、どうしても生涯学習というものを専門で学んでみたく、昨年度に通信大学に通い社会教育主事の資格を取得しました。改めて生涯学習の「奥深さ」「おもしろさ」を発見できました。

今は『本当の意味での市民主体』を目標にして市民のみなさんと共に奮闘しています。この推進は、市民のみなさんも私たちも行政主体の時より何倍も難しく、何倍も時間がかかります。ですが、市民のみなさんは自分の考えを持っています。考えが反映され、企画から運営まで自ら考え行動し、失敗すれば反省することで、市民のみなさんにとっても充実し「やりがい」を実感できます。私たちはあくまで裏方に徹し、そのかわり実現に向けてバックアップを全力で行います。これこそが生涯学習であり、ひいては永続的な市民によるまちづくりにも繋がっていきます。そんな生涯学習って素晴らしくないですか？

熱くなってしまいましたが、要するに生涯学習は色んな意味で**『おもしろい！！』**ってことです！